

1. 創造主なる神がすべての歴史の支配者である (1~2)。

ダニエル書には創造主なる神がすべての歴史の支配者であることを後の世の人々に知らせるためにダニエルに与えられた啓示が記されている。

「主がユダの王エホヤキムと神の宮の器具の一部とを彼の手に渡されたので」とあるように、主が当時の強大な国バビロン帝国を用いて、主に従わず偶像礼拝に陥ったユダを攻めさせたのである。

創造主なる神がすべての歴史の支配者であることが示されている。

2. 異教の地で神に従う…妥協しない信仰

ダニエルは、王の食べるごちそうや王の飲むぶどう酒で身を汚すまいと心に定め、身を汚さないようにさせてくれ、と宦官の長に願った。

私たちは、クリスチャンとして、日本という、異教社会で生活しています。

仏教の葬式であるとか、会社の交通安全、商売繁盛の神社祈願であるとか、

様々な、場面で、異教との戦いに遭遇することがあります。そのような時に

「主よ知恵を与えてください」と祈ることが大切です。

ダニエルのように異教社会に中であって神様を第一とする信仰を貫いていきたい。

3. 神の祝福 (17~21)。

「神はこの四人の少年に、知識と、あらゆる文学を悟る力と知恵を与えられた。ダニエルは、すべての幻と夢とを解くことができた。」

神は妥協せず、異国の地で恐れず神に従った少年たちの健康を支え、知識や知恵を与え、祝福された。

<暗証聖句>

「この世と調子を合わせてはいけません」(ローマ 12:2)

<私たち>

この世と調子を合わせるのではなく、神様から知恵をいただいて、主の証人として歩んでいきましょう。

神はどこに遣わされても、どのような環境に置かれても、あきらめずに主に信頼して従っていく者に対して、必ず介入し、主権をもってその人生に関わり祝福してください。

*** 異教社会に中であって神を第一とする信仰を貫いていく事について分かち合う。**